

大阪府立泉南支援学校 令和元年度 第1回 学校運営協議会 記録

1 日 時 令和元年6月12日(水) 10:00~12:00

2 場 所 大阪府立泉南支援学校 校長室

3 次 第

- (1) 校長あいさつ
- (2) 学校運営協議会委員紹介
- (3) 事務局員紹介
- (4) 会長選出

【協議】

○年間協議テーマ『地域と連携・協働した取り組みについて』趣旨説明

(校長) 学校経営計画にも示す地域との連携・協働をさらに推進していくために、どのように取り組んでいくべきか、そのヒントをとなる提言を頂けるよう活発な協議をお願いしたい。

○各学部紹介

小学部 教育活動のスタート地点。3つの重点目標(身体・社会性・意欲)にしたがって自立に向けて指導している。表面上は見えなくても、太くて強い「根っこ」を育てる年代。時間割は1日1~2活動に設定し、ゆとりを持たせている。帯で設定している自立活動や生活のなかで学ぶことも多い。地域との協働として、今年度も約半数の児童が居住地校交流に取り組む予定。

中学部 小学部で育てられた「根」の上に太く立派な幹を育てる年代。初発の発作が起こる生徒もみられるなど、思春期に入り、心も身体も突然の嵐にあったような状態の年代ともいえる。小学部から高等部をつなぐパイプの役割もある。時間割に関しては、小学部より多くの教科があり、高等部で取り組まれている職業科を意識して職業(木工・窯業)、家庭の教科を設定している。地域との連携協働の取り組みとして、信達中学校と交流や居住地校交流も行い始めた。

高等部 3年後に社会生活を始めることを念頭に、基礎体力をつけるため朝の時間に1週間の帯でトレーニングの授業を設定している。また、卒業を見据えて、職業・家庭生活の時間を設定している。ひとりでできることを少しでも多く身につけることがねらい。地域との連携・協働につながる特徴的な取り組みとしては、地域の企業や事業所で、進路選択・決定のための現場実習が全学年で行われている。

○校内授業見学

○意見交換

- ・日ごろは成人を対象とした障がい者福祉施設で関わっているの、かわいらしい小さい子どもたちが一生懸命取り組んでいる姿に感動した。

【具体的に居住地校交流とは？】

(小学部) 学年や個人の得意とする分野で交流する。低学年は「総合」や「特活」などをつうじて相手校や児童に慣れることから始める。高学年では「外国語」や「家庭科」、相手校の児童も初めて取り組んでいく教科など。回を重ねて給食交流をすることも。交流をするにあたり、保護者のニーズの確認、両校で児童の実態把握、活動内容の検討、事前学習などを経て当日(保護者と教員同伴)を迎えるようにしている。交流後「〇〇ちゃん！」と声をかけてもらえ嬉しかったとの報告もあった。今年度は約半数が交流予定。

(中学部) 昨年度から始めたばかり。流れは小学部と同じだが、忙しい中学校のカリキュラムと本校のニーズの間で、どのように実施していけるのか、より良い方法を模索していく。今年度は4人交流予定。

(PTA 会長) 居住地校交流が始まった頃は「保護者で行ってきてください」という感じで、受け入れ先の小学校も「運動会の見学とかはどうですか？」という雰囲気だったので、保護者としては意義を感じられなかった。今回のような計画的な内容のある取り組みなら続けていただろうと思う。

(委員) 基礎的環境整備が整っている支援学校が小学校へ出向くことによって、小学校の方が合理的配慮を意識し、その考えが行き渡ようになってくれると良い。共生社会やインクルーシブ教育システムが進むとともに居住地校交流も進められるとよい。

(委員) 地域の「信達フェスタ」へ参加してみてもどうか。

(6) 報告

- ・令和元年度泉南支援学校「学校経営計画」及び「学校評価」についての説明
 - ①安心・安全…防災・防犯・アレルギー・熱中症
 - ②専門性…自立活動・授業の専門性
 - ③地域との協働…進路・キャリア教育・共同学習
- ・令和2年度教科書選定について
 - 「道徳科」採択教科書の見直し。7月5日ごろに決定する。
- ・泉南支援学校「自立活動部」の方針について
 - 3つの指導の柱は「学校生活全般」「時間における指導」「抽出授業における指導」
- ・平成30年度卒業生の進路状況および令和元年度進路指導方針について
 - 進路状況についてはその他の欄には不登校の生徒も含まれている。
 - 別紙「本校の進路の流れ」は3年間の卒業後の進路決定についての流れを示している。

Q: 卒業後の就労の定着率は？

A: H30年度卒業生については、数件相談はあるが今のところ何とかみんな頑張っている。開校から現在までの卒業生については知らない間に離職していることもあるが、同窓会をはじめアフターケアを行い、継続して就労できるように、新たな雇用先を探す等の相談にものっている。

その他

- ・(小田会長) 2018年度の中央省庁や地方自治体の「雇用の水増し」以降雇用の際、身障手帳保持者の1次免除に加え、療育手帳保持者も一次免除となった。
- ・(小田会長) 大手前高校や岬高校などで高校の通級指導が始まっている。岬高校では生徒獲得のために、園芸やフグの養殖などさまざまな取り組みをしている。ここにも泉南支援学校が協力していくことはできないか。

(7) 校長あいさつ